

ウルリム
響

星 環

特定非営利活動法人

聖公会生野センター機関誌

第67号

2018年6月1日発行

題字：康秀峰

URL <http://www.nskk.org/province/ikuno>

E-mail: nskkikuno@gmail.com

聖公会生野センター

検索

戦争に近づかないために 主教オーガスチン 小林尚明

「戦争を知っている世代が政治の中枢にいるうちは心配ない。平和について議論する必要もない。だが、戦争を知らない世代が政治の中枢となったときはとても危ない」。

ふと立ち寄った本屋さんに並べてある本の表紙にあった言葉です。手に取ってみると「通販生活 2018 春号 180 円」。作家の落合恵子さんと丹羽宇一郎（にわ・ういちろう）さんの深呼吸対談に出てくる言葉でした。

丹羽さんは、現在日本中国友好協会会長で元中国大使。伊藤忠商事の社長、会長という経歴をお持ちの方です。東洋経済新報社から『戦争の大問題 それでも戦争を選ぶのか』を出版され、その本を取り上げた対談に出てくる言葉でした。丹羽さんは、「日本が二度と戦争をしないために、私の最初で最後の『戦争論』を書きたい」と思い、多くの戦場体験者の方々や軍事の専門家の方たちに直接話を伺い、「戦争を知らない人たちに『戦争（戦場）とは何か』を知ってもらいたかったのです。かつて田中角栄さん（元総理）は、自民党の若い議員たちに『戦争を知っている世代が政治の中枢に・・・』と語っていたそうです。戦争を知らない人が政治を決定する当事者になっ

ているときに怖いということですが、まさに現在、世界の指導者で戦争を体験した人はほとんどいません」と語られ、それに答えて落合さんは「攻撃的な発言をよくする米国のトランプ大統領

も日本の安倍総理も戦争体験はありませんね」と言われています。そして丹羽さんは「いま北朝鮮も米国も、そして欧州諸国の一部も、どんどん戦争に近づいているように見えます」。「だから私は『まず戦争に近づかないでください』と言いたい。そのために、我々はもう一度戦争を学び直すべきだと思います。戦争体験者の方々や軍事専門家の方に話を聞いて、『戦争の真実』を追究したのです」と語られています。

今年も沖縄慰霊の日、広島原爆の日、長崎原爆の日が来ます。主イエスは「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる（マタイ 5：9）」と語られています。まず『戦争の大問題』から読み始めようと思っているところです。

（こばやしなおあき 日本聖公会神戸教区主教）



南北会談から感じたこと

執事 アンデレ 松山健作

私の第2の故郷はソウルである。韓国の空港に着き、ソウル市内に足を踏み入ると「あ～帰って来た」という感覚になる。ソウルで4年という月日を過ごしたからである。

いま大韓民国は大きな変化の時を迎えている。ろうそくデモによって民主的な決断をし、さらに新たな大統領の元で長らく続いた朝鮮半島の痛み

のその一つが解消へと向かい始めた。
私は1年前に教会に赴任すると同時にテレビをやめた。メディアの流す情報に信頼を置けなくなり疲れたからである。しかし、2018年4月27日（金）はインターネットニュースの前に釘付けになってしまった。それは南北首脳会談の行われた日。38度線を境に握手する南北両首脳を前にどれぐらい多くの人が喜び、涙しただろう。その場面を見て私もうっすらと涙した。なぜなら、私の夢は釜山から朝鮮半島を縦断して大陸へと鉄道旅行をすることだからである。

しかし、現況はそれを許さない。朝鮮半島の分断という事柄が、大きく立ちのどかっているからだ。そのゆえ私の祈りの課題の一つは、「朝鮮半島の統一」という項目を含んでいる。これはもちろん、東アジアにおける平和をキリスト者として願うゆえでもあるが、もうひとつは日本の植民地責任という事柄と大きく絡んでいる。

現在、南北の関係は急接近して、朝鮮半島の平和、あるいは東アジアにおける平和のために大きな一歩を踏みだしている。ここに日本がどのように参加できるのか。私たち一人ひとりの参加する姿勢が問われているのではないだろうか。

釘付けになったニュースというのは、韓国メディアのものである。韓国メディアは、南北会談の評価を日本の言論がどのように捉えているかについて、神経を尖らせている。それは、異なる視

点をもっているゆえである。終戦、非核化、離散家族の再会などさまざまな課題が取り上げられる中、北による日本の拉致被害者に言及されないことが指摘されている。日本は南北会談を称賛しながらも「慎重」とであると韓国メディアは評価した。

日本の慎重論は、確かに拉致被害者の観点を強調するのであれば、そうなのだろう。けれども、それについて日本が真剣に取り組むのであれば、同時に、いやそれよりも先に朝鮮半島に対する植民地責任について「もう清算は済んでいる」という認識では足りないだろう。国の教育からして変化させる取り組みが必要なのではないかと、私は思っている。であるゆえに日本の今回示している姿勢は、南北会談に何か積極的に参加する姿勢ではなく、新しい一歩を踏み出さずに傍観しているように感じるのは、私だけであろうか。

今回のニュースを通して、私は北の首脳の声を初めて聞いた。彼は南の指導者に非常に敬意を払いつつ、友好的な姿勢を示す口調であった。これは日本で報じられる姿とは全く異なっており、彼自身が南北が近づくことによって、「同じ民族に喜びをもたらす」だけではなく、「朝鮮半島に関心を寄せるすべての人々への贈物を届けることになるだろう」ことを自覚していたことに驚いた。彼はまた「遠い平壤から冷麺をもってきた」と会

談中に語ったが、言い直して「遠いと言っではいけない」と言い直し、距離だけではなく、精神的に近づいたことをアピールした。

これらは平和を願う日本の私たちにとっても、非常に喜ばしきグッドニュースなのである。

（まつやま けんさく 聖光教会牧師補、
聖光幼稚園園長）

第70周年4・3犠牲者追悼式に参加して

伊藤 美佐子



第70周年4・3犠牲者追悼式が2018年4月3日午前10時から済州4・3平和公園で行われました。追悼式に参加するために、大阪から約100名が参加し、その中には済州4・3事件を体験された方もいらっしゃいました。追悼式には約2万5千人が集まり、入場する際にはボデーチェック、荷物検査がありとても緊張しました。会場に入ると正面のことは「슬픔에서 기억으로 기억에서 내일로」（悲しみから記憶へ

記憶から未来へ）が目に留まりました。語ることができなかった、沈黙を強いられた済州4・3について、過去・現在・未来を文在寅大統領は演説の中で話されました。

「みなさんが済州4・3を忘れずにみなさんと共に、痛みを分かち合った方たちがいたからこそ、今日、私たちは沈黙の歳月を乗り越えこのように集まることができました。

ついに私たちは4・3の真実と記憶を、明らかにすることが民主主義と平和、人権の道を開く過程であることを知りました。国家の暴力が起こしたあらゆる苦痛と努力に対し大統領として、もう一度深く謝罪し、また深く感謝いたします。

2000年、金大中政府は4・3真相究明特別法を制定し、4・3委員会を作りました。盧武鉉大

統領は大統領としてはじめて4・3に対する国家の責任を認め、慰霊祭に参席し、犠牲者と遺族、済州島民に謝罪しました。私は今日、その土台の上に4・3の完全な解決を目指し、揺らぎなく進むことを約束します」（文在寅大統領の演説から抜粋・・・コリアン・ポリテクスより）

語る大統領と聞く私たちの間に熱い交流があり、これからに希望を持つことができた追悼式でした。

午後から平和記念館を見学しました。展示館のひとつに円形の天井の下に横たわっている「白碑」（碑文のない碑石）がありました。済州4・3はいまだに正しく名づけられていないからです。4・3に対していつか真の解決に至った日、はじめて碑文が刻まれ、横たわっている碑石も立つはずです。

（いとう みさこ 京都聖ステパノ教会）

【済州4・3事件】とは

米軍政下の済州島で1947年3月1日、南だけの「大韓民国」建国に向けた単独選挙に反対し自主独立国家の樹立を訴える「三・一節記念大会」が開かれた。この時、警察が群衆に向けて発砲、6名の死亡者が出る事件が発生した。米軍政と軍警は「済州島はアカの島」であり左翼が扇動したと規定した。島民の弾圧を行った。

庄に島民の怒りは頂点に達し、48年4月3日、警察・右翼団体の暴力と単独選挙による朝鮮半島分断に抵抗する武装蜂起が実行された。軍警が制圧にかかったが、その過程に起こった無差別虐殺によって、最終的に3万人の島民が殺されたといわれる。あまりに凄惨な事件だったため、韓国社会はもちろん、当事者たちの中でも長らくタブーとされてきた。

度重なる無差別な弾

2107 年度会費 / 献金納入者ご芳名 (2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 順不同・敬称略)

複数回の方も芳名は一度にさせていただきました。教会や団体でとりまとめたくださったケースは団体名で載せました。ご了承ください。

正会費

井田泉 / 宮嶋眞 / 九州教区 / 谷川誠 / 山本保彦 / 竹林徑一 / 大西修 / 長野泰信 / 佐々田国昭 / 岩城聰 / こひつじ乳児保育園 / 早川育子 / 堀江裕一 / 前田良彦 / 佐藤耕一 / 金秀男 / 鈴木憲二 / 冷麵館 / 春山宗治 / 宇野徹 / 宗像千代子 / 古澤恵依子 / 猿橋靖 / 奥村貴充 / ウイルソンウォーレン / 奥晋一郎 / 林真澄 / 小山俊雄 / 城下彰 / 原田光雄 / 出口弘 / 張聖子 / 中村豊 / 中芝永次 / 松陰女子学院 / 吳光現 / 井出吉志子 / 青柳美知子 / 岡本勝 / 奥田哲夫 / 加納佳世子 / 博愛社 / 須佐美浩一 / 磯晴久 / 斎藤壹 / 大田美智子 / 小出裕司 / 春名英夫 / 古澤秀利 / 山本眞 / 松原恵美子

後援会費

大西憲子 / 小山紀巳子 / 林香代子 / 興津健蔵 / 興津由紀子 / 上田貴亮 / 関ノリ子 / 榎本房代 / 塩田純子 / 古谷美子 / 寺本眞名 / 岡野利治 / 関正勝・澄子 / 高地敬 / 中村道子 / 中村真理 / 中村香 / 中村光 / 中村由香里 / 延商準 / 香山まり子 / 橋本克也 / 田辺聖公会愛の園シオン会 / 児玉勢津子 / 井口諭 / 趙秀一 / 山根博子 / 武藤六治 / 山口瑳智子 / 保坂久代 / 佐藤千鶴子 / 木村多恵子 / 佐々木庸 / 林芳子 / 藤川治彦 / 社会福祉法人神愛会 / 植松誠 / 梁優子 / 目崎宗世 / 中山一郎 / 神谷尚孝 / 堺聖テモテ教会 / 服部喜代司 / 服部慶子 / 加納実 / 川村昌子 / 泉迪子 / 斎藤祥子 / 高橋敏子 / 秋山公子 / 黒川純栄 / 深野尋子 / 上田浩子 / 植松喜久枝 / 栗井操 / 鈴木靖夫 / 中川裕之 / 佐野信三 / 高見久江 / 辻潤 / 福永芽久美 / 博愛社 / 野知卓司 / 内田照子 / 高田日出夫 / 山口善彦 / 中芝正美 / 森中央 / 伊地知敏昭 / 河野芳孝 / 河野紀子 / 福田順子 / 山田護 / 山田郁子 / 富谷晋 / 上村玉栄 / 奥和子 / 東敏勝 / 佐藤悦子 / 島田由紀子 / 佐谷和子 / 内宮隆夫 / 国津進・恵美子 / 桜井揚子 / 三宅享子 / 香西一恵 / 長野加代子 / 坪田敬子 / 大野吾子 / 辻節子 / 川村輝夫 / 樋口敏夫 / 今西時子 / 前原潔 / 江野隆夫 / 若村正博 / 相楽弘子 / 本多修 / 今村祥子 / 高橋新 / 竹林敏子 / 高田須磨雄 / 石井英隆 / 田中廉 / 大阪教区婦人会 / 大阪聖アンデレ教会婦人会 / 宇野徹 / 米満司郎 / 野上千春 / 八尾恵三 / 橋本祥子

献金

横浜クリストファー教会 / 聖三一幼稚園 / 九州教区 / 松戸聖パウロ教会 / 無記名 / 京都伝道区信徒協議会 / 新人権研修信施金 / 奥晋一郎 / 小金井聖公会食事会 / 広島平和礼拝 / 無記名 / 大阪教区礼拝信施金 / 北関東教区 / 大阪教区教会信施金 / 斎藤昭一 / 弘益大学 / 日本基督教団兵庫教区社会部 / 高正子 / 聖パウロ教会 / 斎藤祥子 / 本井栄子 / 尼崎聖スバノ教会手芸カフェ / 長野泰信 / 豊田商店 / 三宅享子 / 西川佳世子 / 富谷晋 / 守口聖オガステイン教会男子会 / 西宮聖ペテロ教会婦人会 / 石毛弘 / 中芝永次 / 西宮聖ペテロ教会 / 上村玉栄 / 石橋聖トマス教会 / 聖バルナバ病院礼拝堂 / 大阪教区連合男子会 / 川口基督教会 / 東豊中聖ミカエル教会 / 東京聖アンデレ教会 / 松本聖十字教会

クリスマス献金

大洲幼稚園 / 木村多恵子 / 林香代子 / 武藤六治 / 高木栄子 / 石脇慶總 / 近澤淑子 / 目崎宗世 / 前田良彦 / 橋本克也 / 東京聖テモテ教会奉仕会 / 豊田幼稚園 / 草ヶ江幼稚園 / 良善幼稚園 / 平安女学院中高宗教センター / 安井クリニック / 岸和田復活教会 / 市川聖マリヤ教会 / 桃山基督教会 / 川越キリスト教会 / 名古屋聖ステパノ教会 / 千葉復活教会 / 神谷尚孝 / 武藤謙一 / 岩田幼稚園 / 松居勲 / 城下彰 / 越山健蔵 / 聖光教会 / 大畑喜道 / シオン幼稚園 / 松戸聖パウロ教会 / 富山聖マリア教会 / 立教女学院 / 聖ルシヤ教会 / 岩城聰 / 鈴木憲二 / 恵我ノ荘聖マタイ教会 / 井上るみこ / 尼崎聖スバノ教会クララ会 / 加納佳世子 / 佐々木晶子 / 福永芽久美 / ウイルソンウォーレン / 森中央 / 林真澄 / 高見久江 / 伊地知敏昭 / 愛光幼稚園 / 大田美智子 / 奥和子 / 今西時子 / 今井千晶 / 聖ルカ教会 / 辻潤 / 青柳美智子 / 大阪聖アンデレ教会婦人会 / 川口基督教会 / 大阪聖愛教会 / 古澤秀利 / 古澤恵依子 / プール学院

ご支援をお願いします

いつも聖公会生野センターの働きをお支えくださりありがとうございます。

「2017 年度聖公会生野センター会計報告」の通り、2017 年度はここ数年にない非常に厳しい決算となりました。特に今年は会費・献金が例年に比べて減少しました。そして行政からの補助金も減少したことが大きな理由となっています。

多くの方々の祈りとご支援に感謝すると共に、地域と共に歩むことを目指している聖公会生野センターの働きを覚えて今一つのご支援をお願いします。

2017 年度聖公会生野センター 会計報告

	勘定科目		備考
収入	利用者負担金収入	3,448,485	
	会費収入	1,425,900	
	分担金収入	1,260,000	
	寄付金収入	3,742,377	
	助成金収入等	70,000	
	雑収入	257,538	
	経常収入計 (1)	20,804,800	
支出	事業費支出	4,388,569	
	事務費支出	3,778,849	
	人件費支出	13,761,071	
	積立金	205,000	
	経常支出計 (2)	22,133,489	
	収支差額	-1,328,689	(1) - (2)



(写真：ボランティア体験のプール学院高校生徒と共に)

【のりばん】

(韓国語で遊び部屋という意味です)
毎週月水金・・・在日高齢者の食事会です。
毎回 15 人位の方が韓国料理で楽しく会食しています。

【韓国語教室】

毎週火曜日

25 年の実績があります。聖公会生野センター韓国語教室の特徴はほとんど日本語を使わない「上級クラス」があります

【デイサービスセンタークリンもだん】

地域の障がい者、特に精神障がい者の憩いの場として活用されています。美術活動、音楽活動や手作り食事を楽しんでいます。

【在日韓国朝鮮人の学びの場】

教会、学校、社会団体からの研修センターとして働いています。大阪教区や聖公会生野センター後援会の学びや 1、2 月のプール学院 3 年生のボランティア体験、1、8 月には韓国の弘益大学学生の 1 か月のインターンシップを実施しています。

【日韓交流】

- ・日韓協働委員会に参加。聖公会生野センターは韓国社会宣教の担当です。
- ・済州 43 事件の取り組み。1948 年に韓国の済州島で起こった悲劇の事件。大阪の在日にも大きな傷を残しました。毎年 4 月 3 日には済州島を訪問。大阪でも慰霊祭を実施しています。

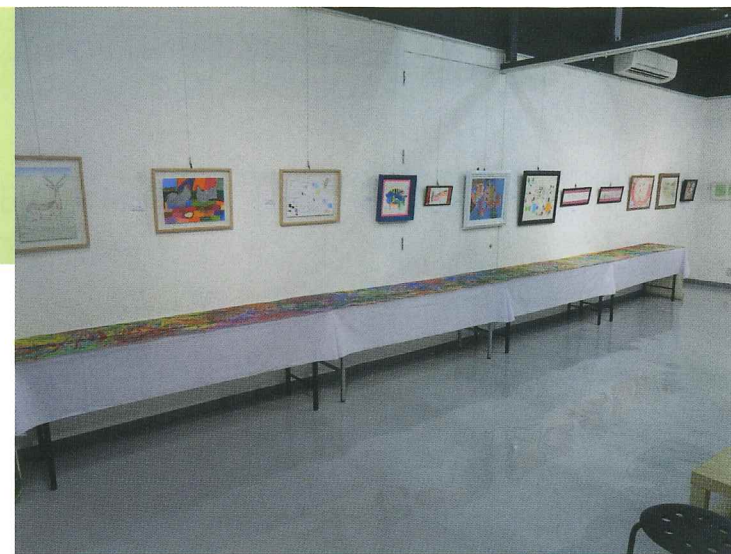
(写真：大韓聖公会ソウル大聖堂中高生と共に)



【クリンもだん美術教室】

毎週土曜日、隔週日曜日
主に知的障がいがある人がじっくりと美術活動に取り組んでいます。

(写真：毎年恒例のクリンもだん美術展)



聖公会生野センターの主な活動

【こみち寄席】

上方落語を楽しむ。「地域の人のたまり場」です。奇数月第 4 月曜日開催。



(写真下：NPO マネージメントの講義をする大阪 NPO センター理事長の山田裕子さん)

【地域活動】

生野区 NPO 連絡会参加。それぞれのミッションを持つ NPO が横の連絡を持ち誰もが生き生きと暮らせる地域社会を目指しています。



聖公会生野センターの設立経緯



1984年の日韓聖公会正式交流を契機に聖公会生野センターは日韓聖公会の祈りのうちに1992年に設立されました。

大阪市生野地域は1920年代から韓国人が居住するようになり、聖ガブリエル教会の働きも在日の同胞に福音を伝えるためにはじめられます。しかし戦争の為に聖ガブリエル教会は強制的に閉鎖され日本の敗戦後も聖ガブリエル教会は復興されることなく家族が中心になり守られてきました。

1970年代に入り大阪教区の取り組みとしてガブリエル子ども会が始められ、教会でも在日韓国朝鮮人の宣教協働が本格化していきます。それは大阪教区そして日本聖公会の宣教の業として大事なものになっていきました。

1988年には管区総会で聖ガブリエル教会堂の復興と地域活動センターの設立が決議され日本聖公会全体の取り組みとして推進されました。それは大阪教区、博愛社、聖ガブリエル教会が力を集めた願いでもありました。そして1992年、聖公会生野センターが設立されました。当初より管区、大阪教区、博愛社、聖ガブリエル教会との協働を大切にすすめられています。

「地域と共に歩むことを願い」というスローガンの下、センターの中で、地域社会の中でそして日韓の教会と共に歩んでいます。

そして2008年には聖ガブリエル教会を母教会としつつ現在の場所に拠点を得てその活動を続けています。

聖公会生野センターへのご支援をお願いします

- ◇正会員 年額 1口 10,000円
- ◇後援会員 年額 1口 3,000円から
 - ・郵便振込 00910-1-321780 「聖公会生野センター」
- ◇自由献金・クリスマス献金
 - ・郵便振込 00910-1-321780 「聖公会生野センター」
 - ・銀行振込 三菱 UFJ 銀行 東大阪支店
 - 普通預金 4654965 「特定非営利活動法人聖公会生野センター」

発行所：聖公会生野センター

〒544-0002

大阪市生野区小路3丁目11番19号

TEL 06-6754-4356 / FAX 06-6224-7856

E-Mail nskkikuno@gmail.com

<http://www.nskk.org/province/ikuno>

発行人：磯 晴久

編集人：呉 光現